

令和6年度第1回 伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

開催日時 令和6年7月31日(水) 10時00分～11時46分

開催場所 伊勢市健康福祉ステーション7階 福祉総合支援センターよりそい会議室1

出席委員 鵜沼 憲晴委員、村井 正治委員、淀谷 祥子委員、松村 まち子委員

森 夏代委員、大澤 伸也隆委員、泰道 詞子委員、浦田 貴大委員、

秋山 則子委員、伊藤 弘委員、北岡 孝裕委員、宮村 昇委員

欠席委員 小林 初美委員

事務局 伊勢市：健康福祉部長、健康福祉部理事、参事兼福祉総合支援センター長、

介護保険課長、高齢・障がい福祉課長、生活支援課長、福祉総務課長

子育て応援課長、保育課長、市民交流課長、学校教育課長

健康課主幹、福祉総合支援センター副参事、主幹、職員

伊勢市社会福祉協議会：事務局長、地域福祉課長、自立支援課長、係長、センター長

傍聴者 なし

1. 正副委員長選出

委員から事務局の提案を求められたため、委員長に鵜沼委員、副委員長に小林委員を提案し、了承される。

2. 第3期計画の振り返り及び第4期計画令和6年度の取組目標について

(1) 第3期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画実績報告

「第3期地域福祉計画進捗管理シート」「第3期地域福祉活動計画進捗管理シート」「第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画 基本目標の達成状況」に沿って伊勢市及び伊勢市社会福祉協議会より説明。

【委員からの主な意見等】

○伊勢市の取り組みの「地域が主体的に取り組む移動支援、生活支援、集いの場などの活動支援」と社会福祉協議会が取り組む「住民主体の生活支援の在り方の検討」は連携していないのか。移動サービスは重要であり、特に介護保険を利用できない要支援の方が困っている。

(事務局回答) 同じ趣旨の取り組みであり、市は送迎サービスや子ども食堂について、社会福祉協議会は生活支援のサービスを中心に記載しており、それぞれ連携しながら進めている。移動支援については法的な規制があるが、現在志摩市でライドシェアの試行的な運用が検証されるなど、様々な議論がされている。国も地域の実情を見ながら取組を検討しているところであり、状況が整えば皆様にもお伝えしたい。

○障がい者サポーターを養成した後にどのような働きかけをしているか。また、今後どのように活動していくのか。サポーターそれぞれに合ったサポートがあるとよい。障害者団体も、サポーターの方が来ていただけるよう様々な事業を実施するのでご支援いただきたい。

(事務局回答) サポーター登録者に障がい者が参加するイベントを案内し、そこでのボランティア

ア活動を通して障がい者とふれあうことで、より理解を深める働きかけをしている。今後も、様々な障がい者が参加する場に積極的に来ていただき支援いただきたい。

○「モデル地区を選定し、福祉のまちづくりを推進する」の項目で、モデル地区は記載の修道地区と四郷地区のみか。

（事務局回答）第3期はモデル地区として2地域であったが、今後は市内全域に広げていきたい。

○孤独孤立対策の中での就労支援について人数的には達成できなかったが、働きづらさを抱えた方を支援するうえで見えてきた課題に対して他の目標とリンクして対応できたこと、次の計画で行っていくことはあるか。

（事務局回答）令和5年度から働きづらさを抱えた人に対する就労支援を実施している。企業の受入体制が整っていないことなどから、今年度から長時間働けない方を市の短時間勤務の会計年度任用職員として採用し支援している。複合的な課題については、令和3年度から重層的支援体制整備事業を実施しており、個人ではなく世帯ごと支援するため、関係機関で協議しながら就労支援等を実施している。

（2）第4期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和6年度の取組目標

「第4期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画目標設定シート」って伊勢市より説明。

【委員からの主な意見等】

○ファミリーサポートセンターについては、第2号社会福祉事業に位置付けられているが、サポーターはボランティア的な位置づけで全国的に報酬も上がっておらず、サポーター不足である。お子様を安全にお預かりする責任感が必要な一方、現状は助け合い精神に頼って安価であるため、人材不足となり事業継続は困難である。事故があれば訴えられる可能性もある。伊勢市は色々と考えてくれているが、こども家庭庁には制度をきちんとしてほしい。

（事務局回答）市は地域で子育てを支援していただくサポーターを確保するため、8月から提供会員の報酬を100円上げて800円としている。現在こども計画を策定中であるが、その中でも人材確保は重要なテーマとなっている。今後も協力しながら子どもをしっかり守っていけるように、また、子育てしやすい体制を整備していきたい。

○サポーター、支援員、民生委員等の人材確保はどの市でも課題である。若い世代の方がすき間時間をいかに活用していただけるかコーディネートのスキルが我々にも求められている。従来のような丸投げは無理で、いかにその人のニーズとマッチングできるかが重要になってきている。

○子どもの虐待防止について記載があるが、高齢者や障がい者がいないのなぜか。

（事務局回答）記載はないが、高齢者や障がい者の虐待防止にも取り組みはしていく。また、必要があれば経過を報告する。

○それぞれの立場で、色々な形で目標が一つでも達成できるよう皆で意見を出していきたい。

3. その他

○事務局から令和6年8月3日に開催する福祉健康ステーション1周年記念イベント及8月2日～4日開催のまちなかウォーカブル社会実験（月ノ宮ストリートパーク）について周知した。

○次回会議は、追ってご連絡申し上げます。